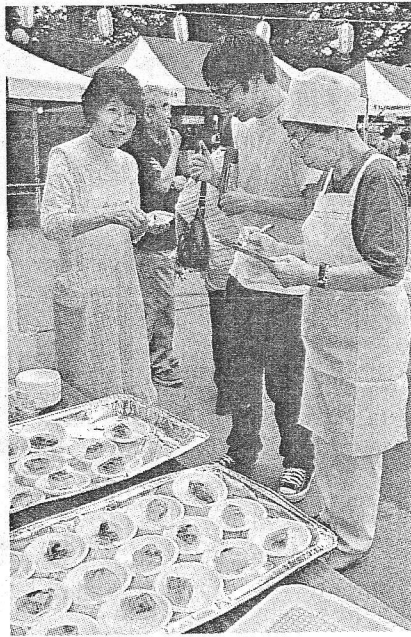


12月に出店「手のひら」 地域行事で商品試食

電信通 来場者から好反応

帯広市内の本願寺帯広別院(西別院)境内で5日に開かれた電信通・西別院ほんおどりで、12月に電信通り商店街に出店するテークアウト食の販売店「手のひら」(仮称)で提供される「手のひら焼き」の試食コーナー



手のひら焼きを味わい、アンケートに答える来場者

ーが設置された。住民に親しまれる商品を目指して、味や感想を訪ねるアンケートも同時に行った。

「手のひら」は高齢者や障害者の雇用の場をつくらうと、同商店街振興組合(長谷渉理事長)と児童デイサービスなどを運営する「花」、NPO十勝障がい者支援センターが共同でオープンを目指しており、道の地域商

業活性化総合対策事業の補助金を受けている。

「手のひら焼き」はジャガイモで作った生地、具材を包む「おやき」で、この日は豚丼をイメージし、甘辛く焼いた豚肉を包んだ。コンセプトの「手で作る・手でつながる・手で包みこむ」から名付け、大きさは70分の「手のひら」サイズ。将来は管内各市町村

の特産物を具材にして19のおやきを販売したい考え。試食した来場者からの評価も上々で、長谷理事長は「商店街の名物に育ってもらいたい」と期待している。

(伊藤亮太)